

# 編 集 後 記

京都女子大学栄養クリニックは、平成20年度に開設して11年、また、R研究棟に移転してからも7年が経過いたしました。お陰さまで、今年度も活動報告書第11号（2018年度）を出版することが出来ますこと、関係の皆様には厚く御礼申し上げます。

今年度も、栄養クリニックのスタッフの他、家政学部食物栄養学科の全教員が、栄養クリニック指導教員または栄養クリニック研究員として、卒業生が栄養クリニック研修生として、また、総勢500名を超える学生ボランティアが、さまざまな事業に参加してくださいました。

まず、今年度のトピックはロゴマークです。開設10周年記念事業期間を平成29年7月から30年6月30日までと定め、昨年度はさまざまな記念事業を行ってききましたが、今年度は、栄養クリニックのロゴマークを作成しました。三大栄養素を表す三色（赤、黄、緑）と、マークの円周を顕微鏡で探求する意を表し、研究活動にも結びつけたデザインは、栄養クリニックの活動を象徴するものとして、今後、さまざまな取り組みの場で、活用が期待されます。

今年度は、生涯学習として、対象を卒業生から一般市民まで広げ、2回開催しました。多目的室が狭く感じられるほど多くの方が参加され、食や健康への関心の高さや、生涯教育のニーズがうかがえました。その他、大学地域連携事業や学園祭における栄養アセスメント・栄養相談なども継続し、社会貢献のみならず、研究活動としてもその成果を学会や学会誌に発表しました。

また、昨年度まで、5年間続けた「東日本大震災の被災者に対する栄養管理支援プロジェクト」の成果を、研究論文、調査報告として京都女子大学食物学会誌に記載しました。

一方、学園内の食育活動として、附属小学校における附小スクールランチや大学での学生生活支援行事「女子大生のための料理教室」に加え、今年度は、学長採択型課題解決プロジェクト「教育学専攻・児童学科と京都幼稚園との教育研究連携」に参画し、京都幼稚園対象の親子料理教室を開催しました。

管理栄養士養成施設に設置された栄養クリニックで構成される「全国栄養クリニック連絡会」の事務局も担当しましたが、年々参加される大学が増加していく中で、学生がボランティアに参加し、多様な活動をしている大学はなく、本報告書からもその活動の多様さを実感することができます。

栄養クリニックは、新たな10年に向けてスタートしました。これからも地域に根ざした大学の「教育研究機関」として、さまざまな課題を一つずつ解決しながら、事業内容及び研究活動の充実を図って行きたいと思っております。今後とも引き続き、ご支援ご指導を賜りますようお願いいたします。

（中山玲子）

<p>編集委員会</p> <p>編集委員長 宮脇 尚志</p> <p>編集委員</p> <p>中山 玲子</p> <p>木戸 詔子</p> <p>中村 智子</p> <p>事務担当 須貝 さゆみ</p>	<p>平成31年3月1日発行</p> <p>発行 京都女子大学栄養クリニック</p> <p>編集責任者 宮脇 尚志</p> <p>住所 〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35</p> <p>TEL 075-531-2136</p> <p>FAX 075-531-2153</p> <p>URL <a href="http://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/shisetsu/eiyouclinic/index.html">http://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/shisetsu/eiyouclinic/index.html</a></p>
--	---